



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

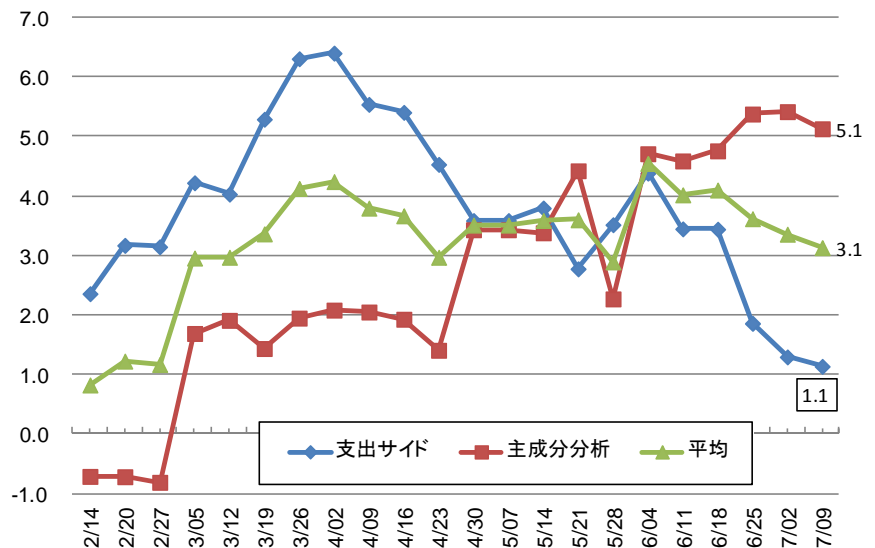
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年7月9日)

ポイント

- ▶先週は、6月の新車販売台数、食料安定供給費、5月の毎月勤労統計及び消費総合指数を更新した。
- ▶5月の消費総合指数は前月比+0.5%上昇した。4-5月期平均は1-3月期平均比+0.5%とまずまずの結果。4-6月期実質民間最終消費支出の予測値は先週から小幅下方修正されたが、今後も堅調な伸びが期待できる。
- ▶6月の乗用車新車販売台数(季節調整値)は前月比-2.1%減少し、2ヵ月ぶりのマイナス。この結果、4-6月期は前期比-0.5%減少した。先行き政策効果の剥落も予想され、新車販売に陰りが見えてきたといえよう。
- ▶日銀6月短観によると、国際商品価格の下落や政策効果の影響で景況感は改善した。先行きについては悪化しており、企業は内需の改善に不安を持っているようだ。
- ▶今週のCQMは、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+1.1%と予測。先週(+1.3%)から小幅下方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%、前期比年率換算)



<6月短観、新車販売台数の結果は、企業が先行き内需に不安を抱いていることを示唆>

先週(7/2-7/6)は、6月の乗用車新車販売台数、食料安定供給費、5月の毎月勤労統計及び消費総合指数が更新された。これらのデータは、民間最終消費支出、公的在庫品増減及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。また2日に日銀短観6月調査が発表された。

民間最終消費の総合的な指標である消費総合指数は、5月に前月比+0.5%上昇した。3-4月の実績値が下方修正されたが、4-5月期平均は1-3月期平均比+0.5%とまずまずの結果となった。この結果、4-6月期実質民間最終消費支出の予測値は前期比+0.4%となっており、先週(+0.5%)から小幅下方修正されたものの堅調な伸びが期待できる。

6月の(軽を含む)乗用車新車販売台数は前年比+46.8%増加し、9ヵ月連続のプラス。しかし季節調整値(APIR 推計)は前月比-2.1%減少し、2ヵ月ぶりのマイナス。この結果、4-6月期の新車販売台数は497万7,831万台(年率換算ベース)となり、前期比-0.5%減少した。先行き政策効果の剥落も予想され、新車販売に陰りが見えてきたといえよう。

日銀6月短観によると、国際商品価格の下落や政策効果(エコカー補助金や復興需要)の影響で素材業種や自動車、建設などの業種で景況感は改善した。ただ先行きの景況感は大企業製造業を除き悪化しており、企業は内需の改善に不安を持っているようだ。これは先に述べた新車販売の先行き見込みとも一致する。

今週(7/9)のCQM(支出サイド)は、内需は緩やかに拡大するが、純輸出は縮小するため実質GDP成長率を前期比年率+1.1%と予測する。民間最終消費支出と公的在庫品増減の下方修正により、先週の予測(+1.3%)から小幅下方修正された。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550